

■ 第 5 回板橋区緑の基本計画改定委員会での指摘事項とその回答

カテゴリ	該当する主な章	委員からの指摘事項	板橋区の回答
計画の内容について	2 章	◆ P 7 の「崖線の緑」や P14 の「⑥赤塚・成増エリア」の説明事項として、板橋らしさの象徴であるコリンソウの記述がほしい。	P19 コラムとして区の花「コリンソウ」の紹介文をはじめ、区の木「ケヤキ」及び区の鳥「ハクセキレイ」の紹介文を記載しました。また、P48 グリーンインフラとしての課題にウォーカブルな空間づくりを進める必要性をこれに対応する P51 グリーンインフラの促進にウォーカブルな空間づくりを進めることを記載しております。P64-65 エコロジカルネットワークも中核地区の形式方針において、赤塚公園におけるコリンソウなどの保全活動について記載しました。
	4 章	◆ 施策展開のテーマⅡ「まちがつながる」に紐づく内容として、ウォーカブルの視点を盛り込んでどうか。 ◆ 緑陰やみどりのネットワークについての記述が不十分である。	P57 基本方針Ⅱ「まちがつながる」の 3 センテンス目に説明文を記載しました。
		◆ 緑被率の目標が維持となっている理由を冒頭に入れ込んだ方が良い。	P61 緑被率の説明文において、今後も人口が増加し、住宅や駐車場に変わっていくなかで、みどりの保全に向けた施策の更なる推進や、まちづくりをはじめとした新たなみどりの空間創出等の取組により、これ以上みどりの量を減らさないことを目標とする旨、記載しました。
		◆ 現行計画にある「みどりの基本構造とエリアプラン」に対応する内容が素案に明確に示されてほしい。また、ここには、エコロジカルネットワークに加えて、人やみどりの回廊を含めてもらいたい。	P63「みどりのエリアプラン」と P64-65「エコロジカルネットワーク」について、新たに記載しました。
		◆ グリーンインフラや協働を推進するための進行管理に関する中間支援等、具体的な仕組みが抜け落ちている。	P69-70 施策展開の共通視点②について中間支援等の仕組みの考え方について記載しました。また、P71-72 コラムとしてまちづくりによる協働の取組について記載しました。
	5 章	◆ パークマネジメントは、グリーンプランのすべての実施方針を適用できないか。	P104 実施する施策一覧にパークマネジメントに関連する施策を明記、また各施策内にパークマネジメントに寄与する事業を記載しました。
		◆ 公園でのみどりのもつ機能としての視覚的な「楽しさ」「美しさ」「綺麗さ」といった言葉を加える必要があるのではないか。	P88 にコラムとして板橋公園での取組を、公園の魅力となる公園が持つ多様な機能が読み手に伝わるよう記載しました。また、同様に P89 にコラムとして、板橋区の特色ある公園である「こども動物園」や「赤塚植物園」の記載を追記しました。
	6 章	◆ 緑地・樹木の実態調査における緑地・樹木の民有地と公有地の内訳、さらに民有地の中でも一般と、宗教法人や学校法人などの内訳が知りたい。	令和 7 年 3 月の「緑地・樹木の実態調査」 P4-17 に公共用地の緑被について記載があり、緑被地面積は 70.34ha（緑被率 23.97%）となります。民有地における住宅につきましては、15.44ha（緑被率 7.12%）となります。 P4-18 に宗教施設及び教育施設の緑被地の分布の記載があり、宗教施設は 10.12ha(緑被率 41.68%)、教育施設は 29.40ha(緑被率 20.60%)になります。
		◆ 湧水や地下水を安全に利用できるよう、水質調査を実施し、結果を公表してもらいたい。	区のホームページ上で資源環境部 環境政策課で実施した湧水や地下水の水質調査結果を毎年公開しております。
		◆ 公園内に農業スペースを設置する際は、泥棒やいたずらなどの防犯上の問題を考慮する必要があるのではないか。	公園内における農業園につきましては、指定管理者や Park-PFI 制度を活用して運営を行っていく方針であるため、運営関係者と連携して取り組んで参ります。
	全般	◆ 古い樹木を伐採した際は代わりとなる樹木を速やかに植えると共に、伐採した木材の活用が図られることに着目したページがあると良い。	伐採後の樹木の更新については、伐採地を含む、周辺環境を含め、検討を進めて参ります。 区内での伐採した樹木の活用については、事業化に向けた検討を進めて参ります。

カテゴリ	該当する主な章	委員からの指摘事項	板橋区の回答
計画の構成・表現について		◆ 樹木医の高齢化に対応し、樹木の異変に気付いた際に迅速かつ的確な判断を下せる体制の整備が必要ではないか。	専門家による点検や区職員による定期的な点検を実施しておりますが、今後も職員研修などを通して迅速かつ的確な判断を下せる体制整備に努めて参ります。
		◆ ボランティアは区民が自発的に参加し、面白さや楽しさといったポジティブな感情を持ってもらうものであり、仕組み化が必要ではないか。	P69 施策展開の共通視点②で多様な主体が担い手となった連携・協働による取組推進について記載するとともに、P70 で協働の仕組みである協働のプラットフォームと協働の 3 ステップとして記載しました。また、P71-72 コラムとしてまちづくりによる協働の取組について記載しました。
	3 章	◆ 3 章の 3「板橋区の“みどり”に関する新たな潮流・変化」が内容と合っていない。	記載内容の整合を図るためタイトルを「板橋区の現状」に変更しました。
	4 章	◆ 58～59 ページ計画の全体像を示す施策体系図が目立つ位置にあると良い。また、施策一覧をページ数と共にその後に記載してもらいたい。	2035 年の板橋区の将来像として P1 に“みらい” “まち” “ひと”各々に写真と文言により将来像を表現するとともに、該当するページを記載しております。また、P74 実施方針及び P104 実施する施策に施策一覧のページを記載しております。
	4 章・6 章	◆ 実施方針と実施施策が別の章になっている理由を教えてください。	第 4 章の実施方針では 2035 年までの 10 年間を単位とした実施方針を記載しており、第 6 章では、このうち 2028 年までの 3 年間を単位とした実施方針を示しております。第 6 章は 3 年毎の見直し、第 4 章は社会状況や区の進捗などにより見直しを行います。
	6 章	◆ 実施施策のレイアウトは、区民目線に立つとわかりにくい、再考してもらいたい。	各施策における事業イメージができるような方針及び写真を追加するとともに、明確な事業内容を記載しました。
	全般	◆ 全体的に計画の流れがつかみにくいため、構成を練り直してもらいたい。	第 4 章の構成について再検討し、計画改定のポイントから将来像、基本方針、計画の目標、みどりの配置方針、施策展開の視点・施策体系、実施方針の流れとなるように構成内容を改めました。
		◆ 文字が多くイラストが少ないため、将来イメージが伝わりにくい。	P1 に 2035 年の板橋区のみどりの将来イメージとして写真とイラストを用いて記載するとともに、写真や図表、コラムを記載することで将来像イメージが伝わり易いように構成しました。
		◆ 読み手である区民がわかりやすい計画となるよう工夫してほしい。	写真やイラストを用いて、読みやすく分かり易いように掲載いたしました。